

(様式第9号)

高槻市立城南中学校区運営協議会 会議録

令和 6 年 10 月 28 日作成

会議の名称	令和 6 年度 高槻市立 城南 中学校区 学校運営協議会		
会議の開催日時	令和 6 年 10 月 28 日 (月) 18:30～20:00		
会議の開催場所	高槻市立 西大冠小 学校 多目的室	公開の可否	可
担当課	教育指導課・教育総務課	傍聴者数	2 人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む)の場合)	(高槻市審議会等の会議の公開に関する指針第5項による)		
出席委員	服部 建、竹内 賢一、松村 八重子、渡邊 真道、小原 章弘、堀家 由妃代、村上 国博、林 のどか		
事務局出席者	(城南中) 上田 誠一、板倉 典子、宮崎 賢治、 豊嶋 寛太、清田 夏未、富岡 一稀、森川 皓司 (西大冠小) 斎藤 仁美、北畠 真、有澤 将行、高田 まゆみ、 吉田 太成、高野 真孝、森川 芙美恵 (若松小) 下西 靖志、藤井 淳、榎野 麻人、田中 俊光、高橋 文 山下 慶太、早川 和世		
会議の議題	1. グランドデザインに基づいたにじわ学園の活動状況について 2. 意見交流 3. 今後の活動について		
配付資料	資料1 名簿 資料2 次第 資料3-1 にじわ学園グランドデザイン 資料3-2 パワーポイントの資料 資料3-3 校区公開授業チラシ 資料3-4 にじわサポーターチラシ		
審議等の内容	グランドデザインに基づいた総合的な学習の時間などの学校の取り組みへの意見と感想		

(別紙)

高槻市立城南中学校区運営協議会 会議録

開会	校長挨拶
議題 1	グランドデザインに基づいたにじわ学園の活動状況について 学校より説明
議題 2	意見交流
委員	若松小の全校シャッフル授業の内容を聞きたい。また西大冠小でもやっているのか。
学校	音楽、体育、社会、理科の4教科を中心に、子どもたちが行きたい授業を選ぶということをしている。授業を担当する教職員もシャッフルしている。シャッフルされたメンバーで給食を食べるということもやってみた。西大冠小では、現在検討中です。
委員	先生までシャッフルしていることや、低学年も自分で選んでいるのがおもしろい。西大冠小学校は、パラスポーツを広めることに取り組んでいる。言葉の授業もおもしろい。相手の立場になって考えるというのを、小学校で取り組むというのは大切だと思う。
委員	中学校は、地域の課題を私にも聞かれた。先生方が教えるではなくコーチになっていて、子どもたちの主体性を大切にしていると感じた。
学校	教科を意識して、今年度から取り組んでいただいているうれしい。人権教育もそれぞれが具体的に取り組んでいるのを感じた。実践の時期や子どもたちの変容など教えてほしい
委員	夏休み明けに全学年行った。今年度の当初に言葉が気になったという課題があった。言葉について話をして、夏休みに校内研で授業をつくった。授業後、子どもたちどうして、相手の言葉について気付いたり、たしなめる行動がでてきたり、言ってしまった子どもも気づきがみられるようになった。
委員	インターンシップで2週間、若松小に行かせてもらった。にじわ学習や教科授業をみて、子どもたちが会話の中で、自然と地域の方の名前がたくさん出てくる。地域での学習の成果や積み重ねが感じられた。
学校	城南中学校で国語と数学をテスト以外のことも行っているとあったが、どんなことをしているのか。子どものワークシートの記述について詳しく聞かせてほしい。
委員	探究のプロセスを日常生活の中で 日常生活を送る中での課題に結び付けるようなことを行っている。ワークシートは、生徒が質問した方が、高齢者施設の方だったこともあり、内容が高齢者の課題をどう解決するかという方向になった。
学校	にじわ学習について それぞれの学校で、実践した後の課題など本音の部分の交流ができているか。ふわふわ言葉とちくちく言葉の取り組みで、ちくちく言葉は、子どもの発言にふたをする可能性もある。
委員	にじわの取り組みの交流は、小中で同じ学年どうして、交流をしているので、どんなことをやっているかは把握している。小中のにじわの交流

学校	は、もっとやっていきたい。とりくみ交流はできているが、やってみての実感など、つっこんだ話までは、できていない。 これまでの単元の流れに子どもをのせるのではなく、子ども発信でどう展開するかに尽力するようになった。
委員	それぞれの学校で、実践したうえで、難しかった点など、本音で語り合えるといい。ちくちく言葉がでないような環境をどうつくるか。そこに
学校	地域の力を借りるといいのではないか。
委員	小学校でやってきたにじわの内容が、うまく中学校につながりきれていないが課題。にじわのカリキュラム編成は積極的にやっているが、中学校内の学年のつながりも課題があるので、保幼小中一貫して、学びを深めるようなカリキュラム編成をしていきたい。
学校	小中学校の校区の全教員があつまる研修は、あるのですか？
学校	年6回あります。
	実践報告をもとにした研修もいいのではないか。ここからは、意見やアドバイスを中心に発言をお願いしたい。
委員	スポーツを推進している立場から、パラスポーツの話もあったので、ボッチャは、貸し出し依頼があったので貸したのですが、それ以外のものはどうされたのか？ ボッチャ以外は、子どもが自分でつくってみた。 ボッチャは、貸し出し可能 高槻でパラスポーツを楽しもうというのを年間10回ほど月曜の夜にやっている。無料で本格的なものが体験できる。実際のものを使ってやれば、体験的に理解できる。ぜひご要望ください。
委員	小学校6年の子がちくちく言葉でのトラブルがあった。あかんことをあかん
委員	と教えるのも大切だが、自分で経験してあかんと感じくことも大切。授業の中で、子どもたちが地域の方の名前を出していた。地域が子どもに根付いている証拠。保護者の参加が少し少ないと感じる。運営協議会も2回目
委員	で傍聴者がやっと2人来てくれた。保護者も先生や学校にまかせきりでは、あかんと思う。
	学力もしっかり分析してくれている。なにかあったときには、学校から連絡をくれる。西大冠小の運動会に参加できて、違いを感じれてよかった。保護者どうしも校区でつながっていけばと思う。
委員	ティーチングとコーチングのちがいについて、子どもたちに何も言わず見守るほうがよいと思うことがある。実際に体験して、子ども自ら気づくようなコーチングするのもいいのでは。 先生方がティーチングからコーチングに変わってると感じた。中学校の学年のにじわの内容が繋がらないという悩みのところに地域が知恵をだせばいい。中学生の知恵も使えるのでは。写真の子どもの表情がすごくいい表情。2年間の取り組みが実を結びつつあるのではと感じる
委員	熟議を地域の人とやるのは、すごくいいこと。一回目二回目であまり地域の参加人数が変わっていないが、増やしていくのは難しいと思う。減ってしまう可能性もある。参加した地域の方が、学校の役に立っている
学校	という実感を持って帰ってもらうことが大切。地域連携の先生が地域の

	人と一緒に地域の家をまわって声をかけていくのは、この校区ならではの感じる。先生方が実践の交流をするのは、とても大切。 授業改善が進み、主体的な学習が進んでいる。その成果は、子ども、教職員、そして保護者地域の変容をとらえることで見えてくる。今後ちょいサポのシステムをうまく活用できるといい。インスタの活用に可能性が大きい。成果の中にもう少し具体例をいれてもいい。あいさつがしっかりできるなど、具体の姿を指標に入れてはどうか。 社会全体の人とのつながりが薄くなっているのに、地域とかかわるという難しいことやっている。システムによって人間が分断されるなかで、資源が少ないなかでも、認知スキルが必要とかつながりをつくるとかが必要という難しい時代である。いろんな方をうまくまきこみ、いろんな人（教育と離れた）から知恵をもらう工夫がいる。 3校のカリキュラムの見直しも含めて、地域と一緒に、小中一緒にというのをやっていきたい。学校教育自己診断を実施する。それを分析し、今いただいた意見を含めて検討し3回目の運営協議会でお示ししたい
--	---